

21	課題番号 14104025	研究課題名 神経回路形成・再編成における CNR ファミリー の生体内機能の解析	研究代表者 八木 健(大阪大学・大学院生命 機能研究科・教授)	評価結果 A
<p>(意見等)</p> <p>本研究では、神経回路形成と再編成過程において、本研究グループが単離・同定した CNR/プロトカドヘリンファミリーが果たす分子機能を解析することを目標とし、1)リガンドの解析、2)細胞内情報伝達系の解析、3)遺伝子欠損・遺伝子変換マウスを用いた解析を行うことを期間内の目的とした。</p> <p>すでに、CNR/プロトカドヘリン のリガンドとして 1インテグリンを同定する重要な発見を行った。全体の研究成果は現段階では十分とはいえないが、研究の性質上、初期段階で大きな成果を得ることは困難であり、今後に期待したい。従って、研究成果の波及性等について現段階で評価するのは時期尚早である。</p> <p>今後の研究計画・方法は概ね妥当であるが、現実的な見直しも一部、必要であろう。特に、3)については、地道に表現型を探すなど、達成のための条件を整える必要がある。当初の目的は概ね達成されることが期待されるが、なお今後の大きな努力を必要とすると考えられる。研究経費の使用状況は、概ね妥当である。</p> <p>目的の 2)および 3)について、幾つかの困難な課題が存在するが、研究の方向性を絞り、今後の精密で地道な研究による進展を期待したい。</p>				
22	課題番号 14104026	研究課題名 嗅覚受容体遺伝子の発現制御と軸索投射	研究代表者 坂野 仁(東京大学・大学院理学 系研究科・教授)	評価結果 A
<p>(意見等)</p> <p>嗅神経細胞では、1種類の嗅覚受容体が、2つある対立形質の一方からのみ発現するが、本研究では、1)個々の嗅神経細胞での単一嗅覚受容体発現の分子機構の解明および 2)同種の嗅覚受容体を発現する嗅神経細胞の軸索が嗅球上で収斂し、特定の糸球に投射する分子機構を解明することを目的とした。</p> <p>これまでの研究経過は順調で、本グループは「嗅細胞における嗅覚受容体発現が他の嗅覚受容体遺伝子の活性化を阻害する役割」をはじめ重要な発見をした。これらの研究成果の学術価値は高い。これらの研究成果により、嗅覚受容体遺伝子発現制御の研究が進むと考えられ、実際に複数の一流誌によるミニレビュー、紹介等の対象となった。</p> <p>今後の研究計画・方法は適切に焦点が絞られ、妥当であり、研究のさらなる発展が期待できる。当初の研究目的は達成が期待される。研究経費の使用状況も適切である。総合的に「現行のまま推進すればよい」と考えられる。</p>				